

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Microeconomics II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位
授業のテーマ	ミクロ経済学における生産理論及び市場理論を中心に学習し、発展的な学習に必要な基盤を養成する。経済学的な合理性について理解し、経済学の視点を学ぶ。		
授業概要	ミクロ経済学Ⅱでは、生産理論を重点的に学習する。表面的理解だけでなく、諸理論の導出についても、丁寧に解説することで、到達水準を低下させないように心がける。		
到達目標	この授業では、ミクロ経済理論の学習を通じて「考える力」の向上を目指す。さらに、期末試験では、公務員の専門試験問題も出題するなど、基本的な受験力の向上も目指す。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	入門経済学やミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済み、または同時に履修していることが望ましい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第1回	テーマ：ガイダンス ミクロ経済学の全体像		
第2回	テーマ：生産理論① 生産要素と生産技術。「技術を可視化する。機械一台あたりの労働者数は？」		
第3回	テーマ：生産理論② 等量曲線。「100tを生産するには、何通りの方法もある」		
第4回	テーマ：生産理論③ 技術的限界代替率とその逓減。「生産の機械化で労働者はどれくらい削減できるか」		
第5回	テーマ：生産理論④ 生産関数と規模に関する収穫。「等量曲線は等高線！！」		
第6回	テーマ：生産理論⑤ 限界生産物とその逓減。「機械だけ、労働者だけの拡大は、生産効率を低下させる！」		
第7回	テーマ：生産理論⑥ 等費用曲線。「1億円で生産可能な製品Aと製品Bの数量の組み合わせを図示しよう」		
第8回	テーマ：生産理論⑦ 費用最小化投入ベクトル。「等費用曲線と等量曲線の接点を持つ意味とは？」		
第9回	テーマ：生産理論⑧ 費用関数。「ある生産量を最も低コストな方法で生産する場合、いくらでできるか？」		
第10回	テーマ：生産理論⑨ 限界費用。「生産を1単位追加した場合、費用はどれだけ増加するのか？」		
第11回	テーマ：生産理論⑩ 平均費用と規模の経済。「生産1単位当たりの費用はいくらか？それは生産を拡大すると？」		
第12回	テーマ：生産理論⑪ 費用、限界費用、平均費用、平均可変費用の関係。「図示すると分かることがいっぱいある」		
第13回	テーマ：生産理論⑫ 損益分岐点、操業停止点と供給関数。「損失が出て、固定費用を少しでも回収しよう」		
第14回	テーマ：市場と競争① 完全競争市場と利潤最大化条件。「生産者はプライステイカー。最適な生産量を選択する」		
第15回	テーマ：市場と競争② 不完全競争市場と利潤最大化条件。「生産者は価格支配力を持つ。逆需要関数の登場！！」		
第16回	定期試験		
テキスト	井堀利宏『入門ミクロ経済学（第2版）』新世社、2010年		
参考文献・資料	ロバート・ドーフマン『価格の理論』東洋経済、1965年（考え方が詳しい）		
成績評価の方法	期末試験60%、課題30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
成績評価基準	【平成27年度（2015）以前に入学した学生】 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 【平成28年度（2016）以降に入学した学生】 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		

オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。
学生へのメッセージ	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学の基盤を形成している。ミクロ経済学を学ぶことで、我々の合理性を再認識し、自らの意思決定を見つめ直して欲しい。